

開催の挨拶

井上 芳保 (コーディネーター)

今日はお集まりいただきましてどうもありがとうございます。この研究会は社会調査の方法に関して研究する趣旨で設けられたものであり、今回が第22回になります。対象がどのようなものであるかによって調査方法も変わる、それならどんな方法があるのかということから、この研究会は始まりました。社会調査というとすぐアンケートのことが頭に浮かぶかもしれませんが、実は色々なアプローチがあり得るわけです。ここ数回はその対象のほう、どんなことを調べるのかということにかなりウェイトをかけたテーマ設定にできていて、今回は健康不安をテーマにしてみました。

今朝の北海道新聞にちょうどこの研究会のことを紹介する記事が出ていて、それをご覧になって来て下さった方もいらっしゃるかもしれません。「健康の義務化おかしいぞ」という見出しが付いていますね。「健康」というのは勿論基本的にはいいことなのですが、その健康が過剰に語られ、過剰に気にする対象になってしまっている。社会全体がなんかそんな雰囲気になっている。そんな気がしてならないわけですね。例えば「メタボリック症候群」というのは、去年くらいから今に至るまで流行語になるくらいにたくさん使われた言葉でして、お腹が出張ってるということを気にしなければいけないような雰囲気が作られています。その背景には何があるのかたいへん気になるわけです。

この「メタボリック症候群」に関しては、

例えば、皆さんの記憶にあるかもしれませんが、去年の8月に実際に犠牲者が出ています。三重県の伊勢市という所で事故が起きています。市をあげてメタボ退治を積極的に推進していこうということで、中間管理職の人が、「メタボ侍」というのに任命されました。ちょっと太ってた人で、普段あまり運動しないような人だったんですけどね。その方が真面目な方だったようで、暑い中を急にトレーニングを始めて、ジョギングをして、お腹のサイズを減らそうとしました。それも何か自分の仕事の一部みたいにしたんでしょね。彼は走っている最中に心臓発作を起こして亡くなったんです。この事件のことは一部の新聞などでは報道されました。メタボ対策ってということについて行政があげて後押しして、任務みたいにしていく。それで、それまで運動していなかった人が「メタボ退治」ということで、急激に体に変調が起こるようなことをしてしまう。そんな形でそういう事故が起こってしまったと思うんですね。

実はその他にもいろいろな動きがありま



す。例えば、後でお話があると思いますが、健康増進法という法律はたいへん気になるものです。「健康」を義務にしまったわけですから、また今年の4月から実は全自治体で特定健康診断というものが実施されます。つまり例の腹回りを測る話題のメタボ検診がなされますが、これは医療費のかさむ75歳以上の人を切り離して別扱いにすることとリンクした形で導入されたものです。74歳までの人の検診を行って成果次第でペナルティを設ける。実際にやせさせることが出来た事業体はご褒美として、保険料負担を軽減化する。ところが、それを達成出来なかった所はペナルティとして、少し上積みしてお金を出してもらう。2013年からのそのようなことの実施に向けて準備が進められています。

そのように雰囲気として社会全体が何か健康に過剰な関心を持つような状況になっている。なんかおかしいんじゃないかな、ということを考えてこういうテーマ設定にしたんですね。

この研究会は、学部の子算を使う研究会として、公募の形でテーマが募集されました。それで私のほうで健康不安のことを問題にしてはと提案したら、学部の皆さんが了解してくれて通った企画です。提案したのは今述べましたような問題関心に基づいています。それで、このテーマでやるとしたらどんな先生をお呼びしたらよろしいかという風なことで色々勉強しまして、今回、お二人の先生に来ていただくことになりました。

お一人は、東京国際大学人間社会学部の柄本三代子先生で、「健康リスクを食べる — 的確な誤読への誘い」というテーマでこれから話していただきます。『健康の語られ方』（青弓社）という著作をお持ちです。テレビのCMには実はいろいろな仕掛けがあって、我々の意識にいつのまにか働きかけてくるような操

作が実はあることを問題にしています。ある意味で健康に関する情報が裏で操られていて、我々の日常生活や意識まで操作されようとしている。そういうことが起きていると思うのですが、そういうメディアの検討というアプローチで健康不安の過剰など健康を取り巻く問題を実証的に研究していらっしゃる、柄本先生に来ていただきました。

もうお一人は、高知大学医学部の佐藤純一先生です。私は佐藤先生のお書きになった論文をある方から紹介されて読んだのですけれど、たいへん興味深い内容で大きな知的刺激を受けました。それが今日のタイトルそのものになっている、「生活習慣病の作られ方 — 健康言説の構築過程」という論文です。『健康論の誘惑』（文化書房博文社）という書物に掲載されています。そもそも「生活習慣病」というのは、ある思惑があって作られた概念である所があるわけですね。それまでは「成人病」と言われていたのが、「生活習慣病」と言い換えられた。生活習慣という言い方になると、その個人の責任で起きたことだから、病気に罹ったその責任がその個人に帰属されていくということになってしまいかねないわけです。特にこの論文では、禁煙に関する、タバコを吸ってはいけないという言説に関して分析していらっしゃいます。今日のお話はその禁煙のことだけに留まらず、さっき私が申し上げたメタボのことなども含めてお話して下さるようです。健康が義務化されていく社会で、裏で実は何が進行しているのか。そういったことに関して、踏み込んだお話を聞けるのではないかと期待しております。

ちょっと紹介が長くなりましたが、コーディネーターとしては最初にそんなことをお伝えしておきます。それでは、あとは司会を研究委員の高田先生にお任せしたいと思います。